

令和7年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立城北中学校

1 自己評価書

教育目標 心身ともにたくましい生徒の育成					
基本方針		<input type="checkbox"/> 自己を律して、礼儀正しい生徒 <input type="checkbox"/> 和を大切にし、自他を思いやる生徒 <input type="checkbox"/> 感性豊かで、明るく元気に活動する生徒			
本年度重点目標		1 基本的な生活習慣の確立と確かな学力の定着 2 思いやりの心と助け合う態度の育成 3 生徒会活動・ボランティア活動の充実			
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成		後期ののみ
			・具体的な対策の実施		
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	③ 家庭学習の充実	一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	④ 読書活動の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実にも努めた。	・教師アンケート	C	C
			・保護者アンケート	C	
・児童生徒アンケート			C		
⑤ ふるさと学習及びESDの推進	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	B	B	
		・保護者アンケート	B		
		・児童生徒アンケート	C		
⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・児童生徒アンケート	A		
(成果と課題) <input type="checkbox"/> 授業のねらいを明確化し、分かる授業を行うことができた。 <input type="checkbox"/> 家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多い。 <input type="checkbox"/> 生徒の読書活動への意欲が低い。 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間において、1年生の地域学習、2年生の海事産業ものづくり講座学習などで、地域の方々に協力を得て、地域に対する知識を広げることができた。					
(改善策等) <input type="checkbox"/> SNSや動画視聴、ゲームをする時間を削り、学習に向かうような取組を考え、具体的な実践をしていく必要がある。 <input type="checkbox"/> 生徒が利用したくなる図書館づくりや選書、呼び掛けを行っていくとともに、文化祭のビブリオバトルが活発になるよう、早めの準備を行う。					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
			・教師アンケート	A	B
			・保護者アンケート	C	
			・児童生徒アンケート	B	
	③ 関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	B	B
・保護者アンケート			B		
・児童生徒アンケート			B		
④ 自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	A	B	
		・児童アンケート	C		
		・児童アンケート	A		
(成果と課題) <input type="checkbox"/> 大きなトラブルもなく比較的落ち着いた学校生活を送ることができた。 <input type="checkbox"/> 教員との良好な関係ができており、問題等に早期対応をすることができた。 <input type="checkbox"/> 不登校やいじめ対応では、教員の認識と保護者・生徒の認識にずれがある。					
(改善策等) <input type="checkbox"/> 不適切な言動を見逃さず、その場その場で指導を継続していく。 <input type="checkbox"/> 不登校やいじめ対応では、誠実な対応を心掛け、途中報告も含め、保護者との連絡を密にしながらか対応に当たる。 <input type="checkbox"/> 相談しやすい人間関係構築に努めるとともに、活躍する場を設け、積極的に称賛する。					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C C	C
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
③ 他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○校務分掌で、一人一人の負担を平均化しよう努めたが、仕事の分担が適切にできなかったところがあった。 ○悩みや相談が気軽にできる雰囲気が醸成できた。 ○新しいSSS、用務員、学校補助員がしっかりと業務を引き継ぎ、教職員を支えることができた。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○休日の部活動、校外活動等の負担の軽減も含めて、公務の分担の偏りを学校の組織として対応していく。 ○学校・教師が担う業務に係る3分類に基いた校務の精選を進めていく。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	
			・保護者アンケート	A	
・地域アンケート			A		
② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
③ 来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○年間で1度、教員が学校運営協議会に参加することで、活動に対する理解促進につながった。 ○学級通信、ホームページを充実させたことにより、大変高い評価を得ることができた。 ○電話対応、保護者への対応においても高い評価を得ることができた。</p> <p>(改善策等)</p> <p>学校運営教機会とも連携し、より地域と一体になった生徒育成を進める手段を考えていく。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

令和7年度 学校評価書（共通） 前期

城北独自の項目

評価項目	評価小項目	評価資料	評価の観点	評価	評価
学校独自	① 挨拶	・教師アンケート	生徒に気持ちの良い挨拶や返事ができるように指導している。	A	A
		・保護者アンケート	お子様は、気持ちの良い挨拶や返事ができている。	B	
		・生徒アンケート	私は、気持ちの良い挨拶や返事ができている。	A	
	② 部活動	・教師アンケート	部活動の指導を行っている。	A	A
		・保護者アンケート	部活動は、お子様のためになっている。（入部していない場合は空欄）	A	
		・生徒アンケート	部活動は、自分のためになっている。（入部していない場合は空欄）	A	
	③ 防災	・教師アンケート	校外で災害が起きた時の行動について、生徒に話をしたことがある。	A	B
		・保護者アンケート	校外で災害が起きた時の避難場所を、家族で相談して（決めて）いる。	C	
		・生徒アンケート	私は、校外で災害が起きた時の避難場所を家族で相談して（決めて）いる。	C	
（成果と課題） ○昨年度に比べ、格段に挨拶をする生徒が増えた。 ○部活動には、教職員も生徒も、意欲的に取り組んでいる。					
（改善策等） ○挨拶指導では、授業前後の挨拶も含めて、各教員が意識して取り組んでいく。 ○部活動の練習時間が、後期は短くなるので、顧問が指導して、部活動への取り掛かりを早くさせる。					